



\*\*\*\*\*

## 新年、あけましておめでとうございます。 本年もよろしくお願いいたします。

幼児虐待、子育てによるストレス、子どもの居場所などがニュースで取り上げられ、子育てをめぐる環境が大変な状況にあることが伝わってきます。そうした中で、つくば市では、多くの方々が子育て支援に関わる活動を行っています。そして、つくば市においてより子育てしやすい地域づくりに向けて、それぞれでやってきた活動を互いにつなげ、線にし、そして面にしていこうという趣旨で、昨年6月に「子育て支援を考える会」が開催されました。あれから、月1回のペースで集まりを続け、少しずつではありますが、つくば市の子育て支援に関わる様々な機関・団体・グループらのつながり（「かるがも・ねっと」）ができつつあります。

本年は、こうしたつながりをさらに広げていくとともに、つながりをもとにして、お互いに学びあい、助けあいながら、子育てをしているより多くの人たちに支援の手を伸ばせていけるようなネットワークにしていきたいと思えます。

皆さま、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

世話人会一同より

前号のニュース・レターにおいて、活動の目的と当面の課題をお知らせしましたが、12月13日の学習会において話し合われた「学習会の今後のテーマ」及び「子育て支援に関する資源調査」についてお知らせします。

### 学習会の今後

今後の方針： 5月頃まではネットに関わっているそれぞれの機関、団体がどのような活動を行っているのか、お互いに知っていく機会にする。  
その後は、特定のトピックを取り上げる。

以下は、提案されたものです。

#### これまでのテーマ

- 第1回 地域子育て支援センター
- 第2回 主任児童委員及び民生委員・児童委員
- 第3回 公民館における子育て支援
- 第4回 児童館・母親クラブ（2005年1月）

#### 今後予定しているテーマ

- 保健センター
- 子育てサークル
- 子育てサポート・サービス
- 教育相談センター

### 子育て支援に関する資源の調査

つくば市における子育て支援に関わる資源を把握し、かつ把握した情報をお互いに活用できるようにデータ化していくことを目的とします。ご協力をお願いします。

実施期間：2005年1月～5月頃

対象と主な内容：

- 市民団体・サークル：団体情報及び活動目的・内容・活動上必要なものなど
- 公民館・児童館：子育て支援に関わる事業、子育てサークル等への援助など
- 保育所（園）・幼稚園：地域に対する子育て支援事業、地域からの協力など
- 自治体の関係機関：各事業の内容、利用者層など

調査実施者：筑波大学教育社会学研究室

## 🍷 「公民館における子育て支援」の紹介 🍷

－ 第3回「かるがも・ねっと」学習会より －

12月13日の学習会では、「公民館での子育て支援と乳幼児家庭教育学級」について、つくば市並木公民館の社会教育指導員である落合美智子さんにお話を伺いました。今回は、「公民館における子育て支援」としてどのような活動を行っているのか、また今後どのような支援を行っていくことができるのか、学習会でだされた意見も交えながら紹介します。



### 1. 乳幼児家庭教育学級での取り組み

#### ☆乳幼児家庭教育学級の概要

乳幼児家庭教育学級は、就園前の乳幼児を持つ親が、保護者としての資質を高めるために学習する場を提供するために行われています。幼稚園、小・中学校などで行われている家庭教育学級のひとつです。

乳幼児家庭教育学級の特徴は、「相互保育」を行うことです。学級生をAとBの二つのグループに分けます。最初の週に、Aグループが講座を受講している際には、BグループがAグループの子どもと自分の子どもを見ます。次週はその反対になります。講座の受講と保育を交互にやっていく形になります。親子が相互保育になれさえすれば、自分のお子さんのことを心配せずに受講できます。

もう一つは実行委員会の形式をとっていることです。実行委員は、毎年1月に募集し、開級される5月までの間に講座内容(乳幼児の食事、ストレッチ、茶道など)、講師、講師との連絡調整、相互保育のペア決めなどを決めていきます。社会教育指導員は、学級生が講座内容などを決めていく際のお手伝いを行います。学級生からの相談があるときには助言をしますが、基本的には手を出さないよう上から指示されています。

今年度は、つくば市内では、9の乳幼児家庭教育学級(竹園、吾妻、並木、手代木、谷田部、二の宮、栄、筑波、荃崎)が開級され

ました。学級ごとに対象年齢と定員が多少異なりますが、だいたい6ヶ月～就園前までの子どもを持つ親で、1学級40名ぐらいです。学級は、4月に募集案内が出され、5月中旬に始まり11月頃まで、午前中に毎週1回開級しています。

ところで、つくば市の乳幼児家庭教育学級は、昭和57(1982)年に竹園公民館における公民館講座が開設されたことに始まるようです。この当時は、研究学園都市がつくられ、多くの研究者とその家族が東京からこの学園地区に越してきた頃です。東京から越してきたために、ほとんどの人がこのつくばの地域において知り合いがいない状況であり、交通の便がまだよくなかったこともあり、家族の人はかなり孤立した状況にあったそうです。そうした中で、小さい子どもがいる若いお母さんたちはお互いに呼びかけ、この状況を何とかしようと思い、竹園公民館に子育て支援に関わる公民館講座の立ち上げを要求したようです。そして、公民館職員と一緒に、最初の頃は、受講生たち自身がどのような講座にしていくのがよいのかを勉強しながらやっていたといえます。それにより、現在の「乳幼児家庭教育学級」のもととなる形ができたそうです。

#### ☆問題点

相互保育は、他のお子さんを見ることで、「あっ子どもってこうなんだ」ということを知る機会ができたり、お友だちをつくることができたりします。ただ、受講しようとする人たちに、預け合いに対するためらいや不安が見られます。どうして知らない人に預けられるのか、自分の子ども以外をどうやってみることができるのか、といった思いをもたれ、受講自体をやめられる方もいらっしゃいます。なかなか、他の方の子どもを見る、他の人に子どもを任せるといったことができない人が多いです。

乳幼児家庭教育学級や育児・子育て支援の公民館講座において、定員以上の人が集まる場合があります。このときは抽選になりますが、定員の3倍、5倍になることがあり、ものすごく必死な感じの電話を入れてきます。そのため、抽選に漏れた方には、並木公民館で活動している子ども連れで参加できるサークルや児童館の幼児クラブ、子育て休憩室などを紹介しています。できるだけつながりを切らないように対応しています。

## 2. 子育て支援の拠点としての公民館の活用をめぐって

落合さんの報告を受けて、子育て支援の拠点として、公民館をどのように活用していくことができるのかについて、次の2つの提案が出されました。

### ① 子育てサポーター養成講座を行う

星埜さんから、仙台市の事例を紹介しつつ、子育てサポーターの養成講座があるとよいのではないかと提案がだされました。10年、20年先輩の人たちがうまく関わっていくことができるような講座があるといいです。今の育児がわからないので、口が出せない、手を出せないという人が多い。そのために、子育てが終わった人のための最新の育児講座があり、なおかつ、保育ボランティアをやりつつ交流できる機会があれば、地域の中でのつながりができてくるのではないのでしょうか。仙台市やさいたま市など、講座を修了した人同士で子育て支援のボランティアグループができたりしているので、新しい支援の輪ができる可能性もあります。

### ② 子育て休憩室のようなものを各公民館もしくは児童館につくる

落合さんより、子育て休憩室（公民館の一室を利用して、週2回午前中に、親子で自由に来て遊んだり、お話ししたりできる場をつくっている。そこに参加する人は、その中で自分の子どもだけではなく、自然と他の子どもを見るようになっていっている）のようなものが各公民館にできるといいなという提案が出されました。ただ、公民館は様々な年齢層の方が使用するため、子育て支援に関わることを行うことがなかなか難しい状況にあるとも。そこで、児童館にそうした場があるのがいいのではないかと意見が出されました。公民館や児童館が子育て中の親子に対して、保育ボランティアがいて、定期的に気軽に立ち寄れるように開かれていくことが提案されました。

### <補足> 「公民館の子育て支援施策」「社会教育指導委員って？」

#### 「公民館の子育て支援施策」

現在、文部科学省は、核家族化や地域社会のつながりの希薄化等による家庭教育力の低下を受け、公民館が地域の家庭教育支援の拠点になるための施策を打ち出しています。例えば、平成14年の「今後の家庭教育支援の充実についての懇談会」の報告や平成16年3月の「家庭教育支援のための行政と子育て支援団体との連携の促進について」の報告などにおいて、親子の学習を促すような子育て支援が推進されてきています。具体的には、公民館の役割として、親子の学びを支えるためのサークルやネットワークの形成、子育てサポーターの育成等といった支援を行うことがあげられています。また、サークルを取り巻く子育てサポーターや子育てネットワークのつながり作りも公民館の仕事となってきました。

#### 「社会教育指導委員って」

社会教育指導員は、教育委員会から社会教育に関する仕事を委嘱された非常勤職員です。担当する仕事は、家庭教育や子育てだけでなく、成人教育や体育、レクリエーション等さまざまな分野があり、それぞれ利用者への直接的な指導や学習相談等にあたっています。指導員には、教育一般に関して豊かな知識をもち、社会教育に関する指導技術を身につけている人が付いており、公民館での社会教育活動を進める上で、重要な役割を担っています。

♡♡お知らせ♡♡

**第4回学習会「母親クラブ及び児童館における子育て支援」**

今回は、東児童館の職員の方と、母親クラブのスタッフの方が講師です。世代間交流の活動を中心に、それぞれの立場より活動報告や課題をお話いただく予定です。ふるってご参加ください！

日時：平成17年1月24日（月） 10:00～12:30

場所：桜庁舎4階、第3会議室



**イベントのお知らせ**

**つくば子育てフォーラム2005 「つくばの子どもと子育て支援を考える」**

午前の部：講演「子ども・子育て支援策のビジョン」（つくば市長 市原健一）  
基調講演「現代の子どもや子育てを取り巻く社会をどう捉えるか」  
（筑波大学助教授 土井隆義）

午後の部：シンポジウム  
「子どもと子ども、親と子どものコミュニケーションを考える」

日時：平成17年1月30日（日）10:00～16:00

会場：カスミつくばセンター 2階 大研修室 参加人員：200名

共催：つくば市ボランティア連絡協議会・社会福祉法人つくば市社会福祉協議会

問い合わせ先：社会福祉法人つくば市社会福祉協議会（029-857-7500）

**「飯野和好 よみ語りライブ**

**いよっ、痛快絵本よみ語りの旅でいっ！つくばの宿」**

第1部 絵本のことや子供時代のことなどのお話

第2部「ねぎぼうずのあさたろう」などのよみ語り

日時：平成17年2月6日（日） 13:30～ 会場：カピオホール

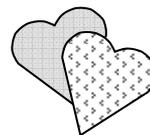
参加費：1000円（\*未就学児は入場できません）

保育費：300円（要予約。1月25日申し込み〆切）

チケット取扱店：つくばカピオ、青い鳥ブックセンター（竹園店、並木店）

問い合わせ先：子育て休憩室 星埜（029-851-5263）

つくば子ども劇場（029-852-9134）



**募集！！**

☆ 子育てに関するイベントや情報などを募集しています。

☆ 学習会のテーマを募集しています。

問い合わせ先：FAX 029-853-4829／メール edu\_socio@yahoo.co.jp  
（筑波大学教育社会学研究室）

発行：つくば市子育て支援ネットワーク **かるがも・ねっと**（設立準備委員会）

「かるがも・ねっと」はつくば市にある子育て支援に関わる機関・団体・サークル、ボランティアのネットワークです。

発行日：2005年1月1日

編集：末富真弓・丹治恭子・渡辺恵

問合せ先：edu\_socio@yahoo.co.jp / FAX：029-853-4829（筑波大学教育社会学研究室）